

# 月刊 あなたにこの本を！ 平成 27 年 8 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの( )内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



## 筆算をひろめた男 —幕末明治の算数物語—



丸山健夫 著  
臨川書店 2400 円  
(0013461083)

ジャンル：大阪にゆかりの本

ペリーの黒船が来航した時、「黒船をやっつける」をテーマに測量学の本を出版した数学者がいた。大阪の有名な数学塾の塾長であり、経営者であった福田理軒だ。彼の生涯を軸に、幕末から明治までの日本の数学の歴史をたどる。お金の計算や大砲を黒船に当てる測量方法、西洋算術の最先端であった筆算の考え方など、当時の世相がうかがえる問題を多数掲載する。図表を駆使してわかりやすく解答を示し、算数の新たな魅力に気づかされる。〔410.2〕



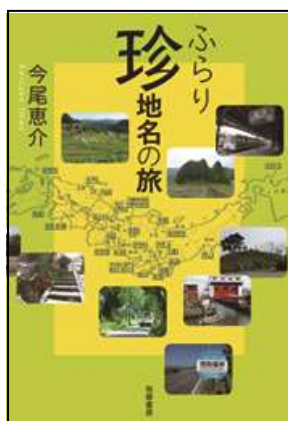
## ツバメのなぞ —ツバメの繁殖行動は進化する！？—



北村 亘 著  
誠文堂新光社 1500 円  
(0013415550)

ジャンル：自然・環境を考える

ツバメはとても身近な渡り鳥だが、その渡りや繁殖行動など詳しいことはわかっていない。また、一夫一婦制といわれているが、実はメスの中には複数の夫を持ち、父親の違う卵を産んで育てる場合もあるという。長年研究を続けてきた著者は、観察方法を紹介しながら、生態や行動をわかりやすく解説する。ツバメの体重や寿命、卵を何個産むのかといった簡単な謎から、最新の研究報告まで書かれた、ツバメを知るには格好の一冊だ。〔488〕



## ふらり珍地名の旅



今尾恵介 著  
筑摩書房 1500 円  
(0013422597)

ジャンル：知識・教養を深める

地名にはその土地の形状や歴史が表れていることが多い。本書は、フリーライターであり、地名に深い興味を抱く著者が、京都市の音羽珍事町(おとわちんじちょう)等、珍しい地名の国内 24 箇所と番外としてスイスのアベンツェルを訪ね歩いた紀行エッセイだ。地元の人と交流しながら土地を巡り、歴史をたどる様子がほのぼのと綴られる。その土地にまつわる物語とともに、地名を後世に残すことの大切さを感じさせられ、身近な地名の歴史について知りたくなる。〔291〕

## 深海、もうひとつの宇宙 —しんかい 6500 が見た生命誕生の現場—



北里 洋 著  
岩波書店 2000 円  
(0013381059)

ジャンル：自然環境を考える

2013 年に実施された有人潜水船「しんかい 6500」の南半球を中心とする世界一周航海について、企画の立ち上げから関わった著者が臨場感たっぷりにつづる。世界最深の鯨骨生物群の発見や、深海生物の輸送・飼育作戦の顛末、「アトランティス大陸発見か」と期待されたりオデジャネイロ沖での花こう岩壁の発見などの興味深いエピソードとともに、航海の成果を解説する。また、各海域の情報や深海調査の歴史も記され、海の豊かさや不思議さが実感できる一冊だ。〔452〕

## 未来を変えた島の学校 —隠岐島前発ふるさと再興への挑戦—

山内道雄、岩本 悠、田中輝美 著  
岩波書店 1500 円  
(0013449156)

ジャンル：現代社会を見つめる

人口減少が深刻な島根県隠岐、島前(どうぜん)地域の 3 町村が、地域を存続させるために「島前高校魅力化プロジェクト」を立ち上げた。地域を学びの舞台にしたカリキュラム編成、学習支援、部活動の強化を図るなどの試行錯誤を重ねた結果、今では島内だけでなく島外からも入学希望者が訪れるようになった。魅力ある人づくりこそが魅力ある地域づくりの神髄だと著者は言う。行政、町村民が一丸となった地域再生を描いた熱意あふれるルポルタージュだ。〔376.4〕

## ヒトの脳にはクセがある —動物行動学的人間論—

小林朋道 著  
新潮社 1100 円  
(0013402939)

ジャンル：知識・教養を深める

ヒトの脳の情報処理は、次世代に自分の子どもを残しやすいように偏りがあるのだという。なぜマンガは文字よりわかりやすいか、時間の始まりや宇宙の果てをイメージできない理由、ヒトが他の動物と異なる点は何か、といった多くの事例から、脳のはたらきについて説く。科学の発達した現代においても神を恐れ、蜘蛛や蛇に対して恐怖を感じる理由にも触れられている。脳科学者ではない、動物行動学者による進化の見地からの新しい考察にもとづく人間論だ。〔141.7〕

## 踊る昭和歌謡 —リズムからみる大衆音楽—

輪島裕介 著  
NHK 出版 820 円  
(0013413353)

ジャンル：知識・教養を深める

「踊れる音楽こそ大衆音楽」と規定する著者は、日本のポピュラー音楽史の新たな切り口として「踊れるリズム」や「踊れるヒット曲」を提案する。著者の前著は演歌や歌謡曲を歌詞や歌手の側面からの分析であった。今回は 1950 年代のマンボ・ブームに始まってドンパ、ツイスト、ディスコといった「踊れるリズム」によるヒット曲の歴史をたどりながら昭和歌謡を論じる。綿密な調査に基づいて書かれた本書は読むだけで楽しい。新鮮で魅力的な一冊だ。〔767.8〕